YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

本誌で取り上げた場所

横浜の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、毎年、横浜市内での芸術文化活動を公募し、助成を行っています。

1件
10万円～

ヨコハマアートサイト2018募集期間
2018年3月1日（木）～4月2日（月）

詳細は募集要項およびウェブサイトをご覧ください。
なお、横浜市の平成30年度予算が横浜市会において議決されることを条件としています。

OPEN YOKOHAMA

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://y-artsite.org/

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイト

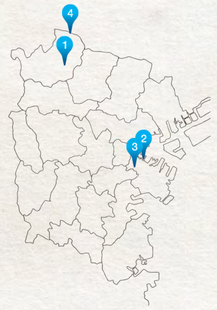
横浜の地域文化を考える・応援する

中区・横浜栄写友「PICTURE THIS 2017：横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト」

2018 Vol. 015

「特集　記録から見る物語」

青葉区・牛込の獅子舞（無形民俗　平成13年2月13日　県指定）



特集　記録から見る物語

この地域の
今といつかを
つなぐもの

お父さんやおじいちゃんも少年のころ踊っていた

青葉区あざみ野にある神明社と新石川にある鷲神社では毎年10月に、伝統芸能である「牛込の獅子舞」が奉納される。牛込とは現在の美しが丘5丁目の一部とあざみ野4丁目、1丁目の一部を指し、この獅子舞は地域の人々の手で受け継がれてきた。近隣の山内図書館で講義を行う郷土史家・横溝潔さんの資料によると「三百年ほど前から続いていると思われるが、その歴史はほとんど残されていない」。正月によく見る一般的な獅子舞とはルーツが異なると言われ、外見も大きく異なる。

獅子舞はまず、ほら貝や笛の音に合わせて行列が進む「道行」からスタートする。三頭の獅子舞のほか、獅子舞のリード役である踊り子、万灯（まんどう）と呼ばれる花笠や提灯を持つ役、「ささら」という楽器の演奏などを受け持つのはすべて地元の少年だ。緑が多く残る住宅地にお囃子の音が響く。

地域住民によって、踊りの保存を目的とした「牛込獅子保存会」が発足されたのは1972年。都市化が進む中で、地域のシンボルでもある獅子舞を守ることで住民の結束を図ろうとしたとも言われている。1997年には記念誌が刊行された。歴史はもちろん、衣装と道具、所作、笛の吹き方や唄の唄い方などが記載されている。年月を経て細部は変化し、2001年には神奈川県無形民俗文化財に指定された。

年長者の踊りを見て育ち、いつしか自分自身も踊り手を任される少年たちは、舞の所作によって、かつて同じ地域で暮らした人々の振る舞いや祈りに触れる。それは、身体を通して人から人へと伝わる「記録」の一つのあり方かもしれない。

2 見慣れたはずの景色と出会い直す写真展

ヨコハマアートサイト参加団体の一つでもある横浜栄写友による「PictureThis2017:横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト」はその名の通り、外国につながるティーンエイジャーが写真をコミュニケーションツールとして、表現活動に取り組む企画だ。横浜を拠点とするフォトジャーナリスト・大藪順子さんが講師となり、地域の写真家と共に進めている。国際都市としての横浜を内側から見つめることをねらいの一つとして、2016年にスタートした。

撮影ワークショップを重ね、1月には象の鼻テラスにて写真を展示。白い壁には、インドネシア、フィリピン、ペルー、中国、アメリカにつながるそれぞれの参加者が撮影した写真が並んだ。どの写真を展示するか、選んだ写真にどんなタイトルをつけるかということも参加者たちで決定した。大人は介入せず、そのプロセスを見守ることで彼らの表現を支える。大藪さんが「彼らの視点にいつも刺激を受ける」と語るように、彼らだからこそ切り取ることができたまちの一面をとらえた作品は、多文化な横浜の姿を映し出す記録物としても、来場者に驚きを与えていた。

3 劇場の中で過去のわたしや未来のあなたと会う

横浜でドキュメンタリー映画の普及活動を行うのは、同じくヨコハマアートサイト参加団体の映像グループローポジション。2017年11月には横浜シネマリンにて、市内で撮影されたドキュメンタリー映画の特集上映「ハマを見つめたドキュメンタリー映画 ―変わりゆく街、子どもたち」を行った。過去と今が出会い、自分と他者への理解を深める場として企画。事前にそれぞれの撮影場所へ足を運んで広報活動を行ったことが功を奏し、作品の舞台であるまちの人々から関心を集めることにつながった。上映に足を運んだ観客

からは、スクリーンに映るかつてのまちの様子と、自分が育ったまちの記憶を重ね合わせたという声もあがった。

映画監督でもある企画者の飯田基晴さんは、映画の記録性についてこう語る。「年月を重ねることで撮影当時とはまた違った意味が生まれていく。作った作品はすぐに公開したくなるけれど、これが未来にはどう見えるのか考えるようになりました」。作り手の意図を越えて映り込む営みの数々は、時の流れの中で新たな物語を紡いでいく。

4 人が語る物語から可視化したまちの記憶

美術家の谷山恭子さんと、街のはなしサポーターは、青葉区・美しが丘の住人にまちの好きな場所について話を伺い、冊子「街のはなし」を発刊している。

谷山さんは2014年にAOBA+ARTにメインアーティストとして参加。「資産としてまちに残るような作品を、インスタレーション作品と並行して作りたいと思いました」と谷山さんは語る。冊子には住民の話が口語で、現在のまちの写真とともに掲載されている。「お話を思い出すとき、語り手の声とともに映像的にまちの風景が立ち上がります」

特に印象に残っているのは、美しが丘公園近くの三叉路のあたりが大雨で150cmくらいの水位になったときの話だそうだ。「昭和49年、車が浮いてしまうほどのプールができたのだといいます。当時近くで働いていた方から伺いました」誰かの記憶が、物語となり、記録に変わる。物語から当時のまちの風景が浮かび上がるようだ。

P.3左
横浜栄写友
http://eishayu.squarespace.com/
P.3中
映像グループ ローポジション
https://www.lowposi.com/
P.3 右
「街のはなし」インタビュー風景
http://machinohanashi.com

アートサイト
ラウンジ
Vol.15-16

横浜の北部の民話に聴く
～『民』と『族』の間に挟まれて～
地域で次代を育むこと

アートサイトラウンジvol.15「横浜の北部の民話に聴く～『民』と『族』の間に挟まれて～」
【会場】なごみ邸(緑区中山町)【ゲスト】Robert Eskildsen ロバート・エスキルドセン(「横浜に聴くプロジェクト」代表／国際基督教大学上級准教授)
【主催】特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク、ヨコハマアートサイト事務局

5 6 地域の中で生まれた文化をみんなで見つけて育てていく

10月28日。地域とアートを考える研修と交流の場・アートサイトラウンジの15回目は、緑区にある日本家屋を活かした会場で行われました。今回のゲストは「聴く」ことを通して多文化共生社会の実現と、コミュニティ意識を高める「横浜に聴くプロジェクト」を提唱するロバート・エスキルドセンさん。横浜北部の民話を元にアニメーション制作等を行った特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワークのプロジェクトに関連し、「民族」と「民俗」の違いや、「民話は誰のものか」などトークは広がりを見せ、また新たな視点で地域コミュニティを考える機会となりました。

11月26日には、栄区民文化センター リリスで、アートサイトラウンジの16回目を開催。隣の部屋ではさかえdeつながるアートによる「ティーンズクリエーション展」として中高生世代の作品が多く展示されていました。この回では、2008年から始まったヨコハマアートサイトの10年間を、その第1回に関わったGROUP創造と森の声・石山克幸さん、金沢文庫芸術祭・浅葉弾さん、AOBA+ART・海老澤彩さん、さかえdeつながるアート・岩上百合子さんと共に振り返りました。

「始動から7年が経った時、自分たちは何のために行っているのか皆で考え直し、もっと地域の役に立ちたいということで活動の形を変えました」と話したのは海老澤さん。それを受けた石山さんの「続けていくためには変化も必要」という言葉には他のゲストも頷いていました。

アートサイトラウンジvol.16「地域で次代を育むこと」
【会場】横浜市栄区民文化センター リリス・会議室(栄区小菅ケ谷)
【ゲスト】GROUP創造と森の声、金沢文庫芸術祭実行委員会、AOBA+ART【主催】さかえdeつながるアート、ヨコハマアートサイト事務局

地域文化の風景

7 受け継がれてきた絆の中で育まれるアートな日々

小浜洋　副館長
（栄区民文化センター リリス）

栄区は市内で最も高齢化率が高く、要介護率の低い区です。つまり、元気な高齢者の方が多い区なんです。他の地域から栄区にやってきたとき、まず住民の方の活気に驚きましたね。自主的な活動が盛んですし、イベントの数も多い。栄区の玄関口になっている本郷台駅の駅前広場はマルシェやお祭りなど、いろいろな催し物の会場となっています。過去にはスタンプラリー形式で商店街をめぐる「アートでつながるショップ・ショップ・ショップ」というアートイベントも企画されました。栄区民文化センター リリスは主に美術を中心に地域の方々の活動の場としてご活用いただいています。

アートと触れ合うときに鑑賞以外のルートを持っている人が多く、アートと生活の距離が近いのだなと感じます。区民芸術祭や文化祭を主催する栄区文化協会の力も大きいですね。地域の方々による自主的な活動なのですが、手芸や陶芸、書道といった創作部会だけでなく、囲碁や茶道といった教養部会、音楽部会、芸能部会と、とてもバラエティ豊かに展開されています。

昔からこの地域にお住まいの方はもちろん、新しくやってきた方も垣根なく参加されているようです。いわゆるアート活動に限らず地域活動が活発なので、集まって何かをするのが好きな方が多いのでしょうね。自治会町内会加入率も市内で最も高いんですよ。

また、栄区のシンボルでもあるいたち川は、物理的にも精神的にも地域の方々の中心にあるようです。周辺は野外彫刻が並ぶ散歩コースもあり、お祭りやキャンドルナイトなどのイベント会場にもなっています。マスコットキャラであるイタチのタッチーくんも人気で、みんなのアイドルです。川の中にはイタチの銅像もあるので、ぜひ探してみてくださいね。昔は水害もあったようですが、そのたび力を合わせて地域で乗り越えてきた歴史が、今の結びつきの強さにつながっているのかもしれませんね。

地域の方々を見ていると、アートに対して気負いがなく、自然に親しんでいる様子があります。本郷台駅から栄区民文化センター リリスまでの間にある駐輪場の外壁はご覧になりましたか。ガラスのショーウィンドウになっていて、さかえ区民活動センター ぷらっと栄による展示スポットとして利用されているんです。刺繍や粘土など、地域で活動する団体の発表の場の一つとなっています。アートが身近にあり、まちのあちこちで触れることができるというのは日々を豊かにしますよね。当館は、複合施設である地球市民かながわプラザの中にあるのですが、この建物自体もアーティスティックで目を引くため、ふらりと立ち寄ってくださる方もいます。これからも人々がアートに触れるきっかけの一つとして、地域に向けて開いていきたいと思っています。

事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

8 12月2日（土）

認定NPO法人あっちこっちによる子ども向けワークショップのため、戸塚区・さくらプラザへ出かける。ピアノ生演奏を聴きながら、子どもたちは音楽・ダンス・美術でアートな世界を楽しんだ様子。ステージ上には、9メートルにもなるクリスマスツリーのタペストリーが飾られ、見ているこちらにもわくわく気分が伝わってくる。

9 12月17日（日）

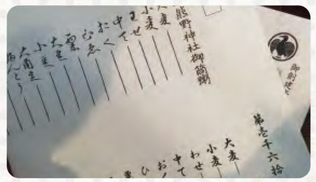
中区・YCC ヨコハマ創造都市センターにてLITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMAによる光と音と動きを題材にしたバイリンガルのアートイベント。ワークショップや英語での読み聞かせなど、会場のあちこちから子どもたちの歓声が聞こえる。照明を落としてのライブ中には、子どもたちが身につけたアイテムや、ボディペイントが星のように光っていた。

10 12月23日（土・祝）

今日は、港南台ひの特別支援学校にて行われた「otto&orabu concert in Yokohama」に向かう。主催は、特別支援学校職員による「つなぐプロジェクト縁」。鹿児島のパーカッショングループ・otto＆orabuのステージ前には、子どもたちが自由に動けるスペースを用意。スペースに立った子どもが、観客の方を向いて踊ったり歌う真似をしたりするのが印象的。

11 1月14日（日）

港北区・師岡（もろおか）熊野神社にて、市指定無形民俗文化財になっている筒粥（つつがゆ）神事に参列。アシの筒を入れた釜で粥を炊き、筒の中に入った粥の量で農作物の豊凶などを占うというもので、今年で1069回目になるとか。結果が読み上げられる度、社殿内は一喜一憂。時代が流れる中でも変わらない人々の営みを感じる。



ヨコハマアートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
（STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜STビル 208
（認定NPO法人STスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL:045-325-0410
FAX:045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.015

発行	ヨコハマアートサイト事務局
編集	認定NPO法人 STスポット横浜
テキスト	小川智紀　池田友実 加納美海 小谷野友梨香（横浜市立大学）
デザイン	相澤事務所株式会社
撮影	福井裕子
印刷・製本	株式会社 三島印刷
発行日	2018年3月30日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。